



日本橋川にサケの稚魚を放流

3月6日(木)、日本橋のたもとにある船着き場からサケ稚魚 3 万匹を放流しました。

日本橋川のサケ稚魚放流事業は、名橋「日本橋」保存会と当NPOが主催し、2012 年から行っており、今年で 3 回目。悪臭やヘドロが減少し、ウグイが見られるようになるなど日本橋川の浄化活動の成果を多くの方々に知ってもらおうと始めました。

当日は、中央区立常盤小学校 1・2年生の児童や地元町内会の方々など約 100 名に加え、飛び入りで参加する道行く人々の姿も見られました。子供たちは、サケが戻ってくる日に想いを馳せながら、楽しそうにサケの稚魚を川に放していました。



前日に雨が降り川の水は濁っていましたが、日本橋川の水をバケツに汲み上げ稚魚を放ったところ、30 分経過しても元気に泳ぐ姿が観察され(写真右)、日本橋川が確実に再生してきていることを実感できました。

全国 EM 技術交流会 東北大会 in 七ヶ浜

EM 普及協会様が中心となり年一度開催している「全国 EM 技術交流会」が 3 月 15 日、宮城県七ヶ浜町で開催されました。会場となった七ヶ浜国際村ホールは満席となり、七ヶ浜町副町長や EM に理解ある国会議員が来賓として列席されました。今回は「生き甲斐のある新しい東北の復興を未来の子どもたちのために」と題し、震災復興に取り組みを中心に事例発表が行われました。

EM を用いた復興支援活動は当 NPO でも度々紹介してきましたが、地元の方から直接聞くお話は当時の様子を生々しく感じ取ることができ、落胆と混乱の中、励まし合って復興の礎を築いてきた人々の崇高な姿に会場は大きな感動に包まれました。

震災から 3 年が経過しましたが、津波の被災地の復興もまだまだこれからです。今回の事例発表で呼び起された感動を忘れず、引き続き支援に携わっていきたく感じました。



感動的だった十三浜ワカメ復活の事例発表



ロシアから東北へボランティアに参加した方から同国での取り組みについても紹介があり、興味深い現象がありました。

左写真は緑色のプレートにコーキング剤を塗布したのですが、上が EM セラミックスを混入したコーキング剤、下は未混入です。

プレート上にヒラマキガイを均一におき一定時間が経過すると写真のように全てのヒラマキガイが EM セラミックス入りコーキング剤へ移動したとのことです。